



立教セカンドステージ大学

News Letter mini

Vol. 7

お問い合わせ

Dec 2020

立教セカンドステージ大学(RSSC)事務室

E-mail: rssc@ml.rikkyo.ac.jp TEL: 03-3985-4672

## 笑顔の尊さ

### 立教大学チャプレン 中川英樹



わたしにとって、毎年、RSSCの皆さんと共に献げるクリスマス礼拝は、とても豊かで嬉しい一時となっています。また礼拝後に催される、第一食堂でのクリスマスパーティも、そのために組織された実行委員の方々の準備と工夫によって、心がほっこりさせられます。RSSCのクリスマスには、とにかく笑顔が溢れています。だから、こちらも自然と楽しく嬉しくさせられるのでしょう。

クリスマスの夜に生まれた、ひとりの小さな乳飲み子は「イエス」と名付けられました。その名の意味は「神は救い」です。イエスの生涯は、つねに、大きいことではなく小さなことに、強いことではなく弱いことに、価値を置きながら、人と人とを出会わせ、結び合わせ、立ち上がらせていく人

生でした。立教の教育的な営為は、このイエスの生き方に原点を持ちます。

人生のセカンドステージを歩む方々を迎えて、2008年に開学したRSSCは、立教の中にあって、人との出会いが如何に豊かで奥深いかを、ここで学ぶ側の方々から教えてもらう、大切な場でもあります。RSSCに学ぶ方々がクリスマスで見せる、その笑顔たちは、これまでの後悔や苦悩、希望と喜びを渉り行き、さまざまな出会いによって積み上げられた人生の深み、そのものを証しているように思います。だからこそ、その笑顔たちは尊厳に満ち、豊かなのだと思うのです。

コロナ禍で、今年は集まることはできませんが、RSSCに学ぶ皆さんの笑顔が、今、苦しみと不安に顔を曇らす多くの人たちを救い、励まし、支えるものになればいいなあ、と願っています。

## RSSCの一年 RSSCのクリスマス

立教大学全体で様々なイベントが行われるクリスマスシーズン。RSSCでも、毎年各ゼミから選ばれた受講生委員が10月頃からクリスマスパーティを企画し、年内最後のゼミナールの日に開催します。

キリスト教に基づく教育を行う立教大学で学んでいることで、受講生の企画や会場の飾りにも、立教ならではのクリスマスパーティを作ろうと力が入ります。

これまでの企画としては、「立教大学ビッグバンドクラブ New Swingin' Herd」による力強いジャズ演奏、「立教学院諸聖徒礼拝堂ハンドベルクワイア」による優しい音色のハンドベル演奏など、立教大学学生団体に依頼して実現した催しがあったり、RSSC同好会による合唱やプレゼント抽選会などRSSC受講生参加型の企画もあり、毎年魅力あふれるイベントとなっています。

また、食事のメニューにもこだわるのがRSSCならではの。料理人だった受講生委員が、クリスマスらしい華やかな料理を自ら食堂に提案し、メニューが一新された年もありました。その時

に導入された生ハムの切り落としの実演は、その後のクリスマスパーティの定番メニューとなっています。

さらに、3年前から行われるようになった「RSSC受講生のためのクリスマス礼拝」(パーティ当日お昼休みに実施)も、委員からの提案で実現したものです。

このように歴代クリスマスパーティ委員のさまざまなアイディアによって、クリスマスパーティは作り上げられてきました。本当にたくさん受講生の思いが詰まっています。

今年はコロナ禍でのクリスマスシーズンとなります。いつものような



クリスマスパーティは実施できませんが、厳かなクリスマスを過ごしてみたいかがでしょうか。

次回は、「修了論文・修了論文発表会」を予定しています。

## RSSC 事務室から、キャンパス便り

12月クリスマスの時期が近づくと、学生キリスト教団体に所属するさまざまな団体による、クリスマスイベントが行われます。例年は、イルミネーション点灯式から始まり、ハンドベルやパイプオルガンのコンサート、キャロリング、メサイヤ演奏会、そしてクリスマス・イブ礼拝など、多彩な催しが開かれ、立教ならではのクリスマスシーズンとなります。今年の予定は、クリスマス実行委員会 HP で確認できます。



## ヒマラヤ杉のイルミネーション

池袋キャンパス本館前の2本のヒマラヤ杉は、1920年ごろ植林され、樹齢約100年と推測され、高さは約25メートルで、現在も成長を続けています。そのヒマラヤ杉を用いたクリスマスイルミネーションの始まりは、戦後すぐの1949年ごろ。2本のヒマラヤ杉が、物資が乏しい中集められた400個あまりの色電球でライトアップされました。現在は、6色の電球がおよそ1200個取り付けられ、毎年、幻想的な雰囲気にキャンパスが包まれます。数こそ多くなりましたが、当時と変わらない白熱灯の灯りは、訪れる人の心まで温めてくれるようです。



点灯期間は、キリストの降誕を待ち望む「降臨節」から、地上への顕現を祝う「顕現日」までの約5週間です。

## 音楽と灯のあるキャンパス～クリスマスに寄せて～ RSSC 教員 佐藤壮広



メリークリスマス！今年も12月になりました。今年も、新型コロナウイルス感染防止のために、クリスマス・パーティの実施は見送られています。11月27日（金）には例年通りキャンパスのクリスマス・ツリーに灯りがとりました。クリスマス実行委員会は動画配信サイト・YouTubeに専用チャンネルを用意し、点灯式の模様を流しました。点灯期間は2021年1月6日まで。それまではウェブ上で立教のクリスマスを味わうことができます。URLは以下です。ぜひご覧ください！

[https://www.youtube.com/channel/UC0Gdf53Q990EdQX6GY3Ac\\_A?view\\_as=subscriber](https://www.youtube.com/channel/UC0Gdf53Q990EdQX6GY3Ac_A?view_as=subscriber)

私の担当する「歌が照らす人と社会」の授業でも、この時期にはクリスマスソングの話をしています。定番の「サンタが街にやってくる」、「ホワイト・クリスマス」は、メロディもリズムも心地よく、joyfulな気持ちで満たされます。いっぽう日本で定番となっている「クリスマス・イブ」（山下達郎、1983年）、「いつかのメリークリスマス」（B'z、1992年）、「白い恋人達」（桑田佳祐、2002年）などは、いずれも失恋ソングです。80～90年代にかけて、12月24日は、若い人たちに「誰か特別な人と過ごす」という使命を帯びた焦りと悲壮感漂う日となりました。自分の大学時代（1987～91年）を振り返っても、「クリスマス、どうするの？」、「24日、何か予定あるの？」という会話は、なかばタブーでした（笑）。街でクリスマスソングが流れると、その頃の悲喜こもごもの思い出がよみがえります。「クリスマス・イブ」の間奏部分、山下達郎の声のファンファーレは、祝いどころか呪いの響きの感さがあります（注：個人差があります）。この時期、皆さんにはどんなクリスマスの思い出、そしてメロディが浮かんできますか。ぜひ伺ってみたいです。

セカンドステージ大学では、毎年12月に池袋キャンパス・第一食堂でクリスマスパーティを開いてきました。サンタクロースの帽子をかぶり、トナカイの頭飾りを付けたりと、とても賑やかなひとときです。私が顧問をしているRSSCの同好会「ウタテラス」（<https://rssc-dsk.net/circle/utaterasu>）も、パーティでジョン・レノンの「Happy Xmas - War is Over」を合唱するなど、皆で楽しんでいました。このウタテラスでは、コロナ危機の中でもSNSのLINEグループを活用してお喋りし、自分が歌う動画を共有するなどしながら、交流を続けています。さて、12月のクリスマスパーティではまた、学部学生によるハンドベル・クワイヤーの演奏、RSSC有志による合唱などもあり、とても盛り上がります。パーティは20時すぎに終わりますが、皆さんまっすぐ帰宅することはありません。学生らしく、まだまだセカンドステージのクリスマスを楽しむのです。時にはそのテーブルに参加して、教員のわれわれも皆さんからパワーをもらっています。今年も、パーティで一緒に歌い、歓談することは叶いませんが、皆さんの耳元にそれぞれの思い出深いクリスマスソングがよみがえりますように。アーメン。



過去のRSSC  
クリスマスパーティの様子

＜教員専門分野＞

宗教学

人類学／表現文化論